

シ但此消毒法ヲ施行シタル糞池肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新タニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セサルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ケナシ

虎列刺患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ表面ノ土ヲ掘リ取リテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘク燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ  
虎列刺患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キテ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疎通セシムヘシ

第六 衣服、器具、疊、敷物等

- 一 傳染病者ノ着用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類
- 一 看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ着用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等
- 一 患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ
- 右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

(一) 熨熱

消毒スヘキ物品ニ應ジ攝氏百度以上ノ熱熨ヲ三十分乃至一時間以上周テシ通セシム

(二) 煮沸

熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

(三) 石炭酸水浸漬

石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

(四) 昇汞水浸漬

昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

(一) 石炭酸水拭淨

石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭擦ス

(二) 乾布拭淨

屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭淨シ其乾布ハ速ニ燒却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス

木製ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞、段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シテ然ル後日光ノ大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ發疹室扶私、痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリシモノ、類ハ燒却スヘシ



第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ壘、敷物ヲ揚ケ、敷物ハ前項ニ依ルシ室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ焼却シ（床及ヒ床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スベシ）掃除後昇永水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部チ丁寧ニ拭淨スヘシ  
右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通チ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥チ爲サシメサルチ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣チ以テ乾燥セシムヘシ

第八 瀝車

虎列刺患者アリタル瀝車ノ車室ハ先ツ吐瀉物チシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石炭炭屑、灰、砂、鋸屑等チ撒布シ之チ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法ニ準スヘシ但車室ニ附屬スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水チ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法チ行フヘシ但其船舶ハ消毒法チ行フニ先ツ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔リタル所ニ廻航セシムルチ要ス  
一 患者アリタル船室ハ先ツ室内ノ臥具、戸帳、敷物等チ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部チ掃除シ次ニ昇永水又ハ石炭酸水チ周チ室内ニ撒布シテ後水チ以テ叮嚀ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通チ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客チ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣チ以テ乾燥セシムヘシ

一 患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水チ以テ洗淨スヘシ

虎列刺ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法チ行フヘシ

- 一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水チ撒布シテ後水チ以テ十分ニ洗滌スヘシ
  - 一 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥チ灌キ船底ニ滯留セル汚水チ排除シタル後水チ以テ之チ洗滌スヘシ
  - 一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器チ洗淨スヘシ
- 達三第五十號 明治二十三年十一月二十一日

警察署  
警察分署  
郡市役所

今般訓令第七十八號ヲ以テ傳染病豫防心得發布候ニ付テハ該事務取扱別冊之通相定メ候條右ニ依リ取扱フヘシ

但各町村役場ニモ達シ置クヘシ

(別冊)

傳染病豫防事務心得

第一 市町村長ハ所轄警察署長又ハ分署ヘ協議シ衛生主務吏員チシテ巡查ト共ニ每衛生



組合内ヲ時々巡視セシメ其規約實行ヲ督勵スヘシ

但衛生組合ノ設ケナキ地方ニ於テモ部内ヲ巡視セシメ衛生上ノ注意ヲ加フヘシ

第二 郡長ハ所轄警察署長又ハ分署長ヘ協議シ衛生主務郡吏ヲシテ每衛生組合内ノ實況ヲ監察セシムヘシ

第三 傳染病豫防心得總則第三條ノ場合ニ於テハ市町村醫(市町村醫不在ノ節ハ主治醫)立會ノ上其病症ニ依リ左ノ事項ヲ取調フヘシ

一 發生ノ時日

二 發病前飲食ノ種類

三 飲料水ハ井戸カ將タ河水ナルヤ

四 發病以來吐瀉ノ度數

五 患者ノ吐瀉物ヲ投棄セシ場所

六 發病前當人及家内ノモノ該病アリシ地ヘ往復ノ有無

七 該病アル地ヨリ來リシ物品ノ有無

八 該病アル地ヨリ來客若クハ職人婢僕等ノ雇入ヲナセシコトナキヤ否ヤ

九 會テ其家若クハ近隣ニ該病アリシコト及其家ニ下痢ヲ患ヒシモノナキヤ否ヤ

第四 町村長ヨリ郡長ヘ郡市長ヨリ知事ヘ虎列刺病發生ノ旨報告スルトキハ前項取調ノ事項ヲ添付スヘシ

第五 郡長ニ於テ町村長ヨリ虎列刺病發生ノ通知ヲ得タルトキハ直ニ郡吏並ニ郡醫ヲ該

地ニ派遣セシメ警察官ト協議シ豫防消毒ノ監督ヲナサシムヘシ

第六 郡市町ヨリ知事ヘ虎列刺病發生ノ旨報告スルトキハ電信ヲ以テシ電信不通ノ地方ハ熊夫ヲ以テスヘシ此場合ニ於テハ其封上ニ虎列刺病申報ト朱書スヘシ

第七 市町村長ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物ヲ溝渠又ハ河中ニ投棄シタルコト判明セシトキハ五日以上飲料ハ勿論其他一切ノ用ニ供スヘカラサル旨ノ禁止標ヲ建テ且ツ其由ヲ本郡役所及下流ノ市役所町村役場ニ急報シ併セテ所轄警察署又ハ分署若クハ巡查駐在所ニ通知スヘシ

但禁止中ハ衛生主務委員ヲシテ水路ヲ時々巡視セシムヘシ

第八 豫防消毒藥及器械ハ左ノ割合ヲ以テ常ニ下渡シ置クヘシ

|       |       |      |     |
|-------|-------|------|-----|
| 藥品及器械 | 一郡市役所 | 一警察署 | 一分署 |
| 石炭酸   | 十 罎   | 五 罎  | 三 罎 |
| アルコール | 三 罎   | 二 罎  | 一 罎 |
| 生石灰   | 二十五 磅 | 六 磅  | 二 磅 |
| 噴射器   | 十 個   | 五 個  | 三 個 |

第九 警察署及分署ノ豫防消毒藥ハ派出警察官ノ豫防ニ用ユルモノトス

第十 郡市役所ノ豫防消毒藥ハ派出郡市吏町村長醫師及病家等ノ豫防ニ用フルモノトス



但病家ノ消毒ニ用フルハ病家ニ該藥ノ豫備ナキ時又ハ病勢猛烈須臾モ闕クヘカラサル場合ニ限ル

第十一 豫防消毒治療ニ關スル物品ハ病家ニ於テ自辨セシムヘシト雖モ極貧ニシテ藥物等自辨スル能ハサル者ヘハ左ノ科目中適宜見計ヒ郡市役所ヨリ一時下渡シ置キ而シテ其事由ヲ具シ費用ヲ請求スヘシ

一 治療藥價

一 消毒藥

一 病毒ニ觸レタル衣服、臥具其他ノ燒却料

但重大ノ物品ハ一時消毒シ置キ經伺ノ上處分スヘシ

一 棺桶並棒

一 火葬費

一 人足賃

第十二 極貧ノ者ヘ豫防消毒藥ヲ施與スル場合ニ於テハ大凡患者一名ニ付左ノ割合ヲ以テ郡市役所ノ豫備藥ヨリ支出シ追テ縣廳ヘ請求シ其欠ヲ補ヒ置クヘシ

一 石炭酸水

一 生石灰

一 燻 一 磅

第十三 醫師ヲ雇入レ檢疫セシメントスルトキハ經伺ノ上雇入ルヘシ其旅費ハ十九年閣令第十四號内國旅費規則六等額ヲ以テ支給スヘシ

但急施ヲ要スル場合ハ直ニ雇入ノ上詳細具狀スヘシ

第十四 虎列刺病發生ノ地方ニシテ檢疫所設置ノ前後警察官郡市吏員ノ管掌區分ハ左ノ如シ

警察官郡市吏協同管掌

一 虎列刺患者發生シタルトキ其消毒及撲滅法實施方監督ノ事

一 治療及看護方監督ノ事

警察官主管

一 死屍埋火葬及汚穢物品糞棄又ハ埋沒方監督ノ事

郡市吏主管

一 埋火葬場及汚穢物燒棄又ハ埋沒場取設ノ事

一 貧窮者汚穢物品買上ノ事

一 同消毒藥豫防藥治療施與ノ事

○訓令第八十四號 明治二十三年十二月十五日

警察署  
警察分署  
郡市役所  
町村役場

本年(十一月)訓令第七十八號傳染病豫防心得中豫防委員ハ清潔法施行委員ヲ以テ之ニ充



ツ但特ニ増員ヲ要スルトキハ屬技手ハ内務部長警部ハ警察部長郡吏町村吏郡町村醫ハ郡長市吏市醫ハ市長之ヲ選舉具申スヘシ  
 ○訓令第三十一號 明治二十四年 三月十二日

郡市役所  
 警察署  
 警察分署  
 町村役場

檢疫事務規程左之通相定ム

檢疫事務規程

第一條 檢疫事務實施ノ爲メ縣廳内ニ臨時檢疫本部ヲ設ケ郡市役所若クハ警察署内ニ其支部ヲ置ク又須要ト認ムル場合ニ於テハ郡市内ノ一部ヲ區畫シテ出張所ヲ設置ス  
 檢疫本支部及出張所ノ開閉ハ特ニ之ヲ告達ス

第二條 檢疫本支部及出張所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 一名
- 内務部長ヲ以テ之ニ充ツ
- 副部長 一名
- 警察部長ヲ以テ之ニ充ツ

委員

若十名

屬技手警部醫師ヲ以テ之ニ充ツ

檢疫支部

部長

一名

郡市長ヲ以テ之ニ充ツ

副部長

一名

警察署長ヲ以テ之ニ充ツ

委員

若干名

警部郡市吏醫師ヲ以テ之ニ充ツ

檢疫出張所

所長

一名

上席委員ヲ以テ之ニ充ツ

委員

若干名

警部郡市吏町村吏醫師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 本部委員ハ本部長直ニ之ヲ選定具申シ支部及出張所ノ委員ハ支部長之ヲ選定シ

本部長ヲ經テ具申シ知事之ヲ命ス

第四條 本部長ハ檢疫所ニ關スル一切ノ事務ヲ指揮監督ス

本部長ハ各職員ノ勤惰賞罰ヲ知事ニ具申スルコトヲ得



- 第五條 支部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ部内一切ノ事務ヲ指揮監督シ其勤惰賞罰ハ本部長ヲ經テ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第六條 出張所長ハ支部長ノ命ヲ承ケ所内一切ノ事務ヲ管理ス
- 第七條 本支部長事故アルトキハ其副部長之ヲ代理シ出張所長事故アルトキハ次席委員之ヲ代理ス
- 第八條 委員ハ各部所長ノ命ヲ承ケ諸務ニ從事ス
- 第九條 臨時雇員ヲ要スルトキハ經伺ノ上各部所長之ヲ命スルヲ得
- 第十條 檢疫ニ關セル一切ノ經費ハ地方稅衛生費ヨリ支辨ス
- 第十一條 檢疫員ノ重ナル主掌ノ事項ハ左ノ如シ
  - 一 病原ノ傳染ナルヤ否ヲ探知スル事
  - 一 傳染ト特發トナ問ハス傳染病豫防心得書ニ依リ充分ノ處置ヲナスコト
  - 一 消毒藥及其要具ヲ準備スル事
  - 一 消毒藥ノ種類配合用量ニ注意スル事
  - 一 消毒及豫防方法ヲ實施ニ就キ注意スル事
  - 一 交通遮斷ヲ必要ト認ムル場合ニ於テハ該病家ニ就キテ一家ヲ遮斷スルカ若クハ一局限リ遮斷シ得ヘキヤ否ヲ鑑別スル事
  - 一 看護人運搬夫雇給仕小使等ヲ監督スル事
  - 一 遮斷地内實施監督ノ事

- 一 遮斷地内救助ニ注意スル事
  - 一 遮斷地内清潔法及豫防方法ヲ監督スル事
  - 一 避病院及燒場ヲ巡視スル事
  - 一 患者ト健康者隔離方法ノ事
  - 一 攝生法殊ニ飲食物ノ注意上要用ナル件ヲ諭示スル事
  - 一 清潔法及豫防法上要用ナル件ヲ諭示スル事
  - 一 學校病院工業場劇場寄席旅人宿下宿屋湯屋其他群集ノ場所ハ特ニ注意スル事
- 訓令第三十二號 明治二十四年三月十二日
- 郡市役所  
警察署  
警察分署  
町村役場

避病院設置規程左之通相定ム

避病院設置規程

- 第一條 避病院ハ傳染病蔓延ノ兆アルニ際シ豫防ノ爲メ其區畫ヲ定メ臨時之ヲ設置スルモノトス
- 第二條 避病院ハ人家井泉河流道路ニ接近セス又風ノ方位ニ注意シ患者其他運搬ニ便ナル位置ヲ選定スヘシ



第三條

避病院ノ構造ハ簡易チ主トスヘシ

- 一 床ハ成ルヘク之ヲ高クシ窓戸ハ濶大ニシテ空氣ノ流通ニ注意スヘシ
- 二 虎列刺ノ病室ハ重症輕症恢復ノ三室ニ區別シ患者一名ニ付大約二坪ヲ要ス
- 三 赤痢腸室扶私發疹室扶私ノ各病室ハ患者一名ニ付大約二坪五合ヲ要ス
- 四 痘瘡ノ病室ハ重症輕症ノ二室ニ區別シ患者一名ニ付大約二坪五合ヲ要ス
- 五 前三項ノ各病室ハ實際ノ狀況ニヨリ適宜廣狹ヲ斟酌スヘシ
- 六 病室ニハ左ノ附屬室ヲ要ス
  - 屍室 一棟 大凡三坪
  - 但成ルヘク病室ニ隔離シテ之ヲ設クヘシ
  - 消毒室 一棟 大約二坪
  - 但煮沸用釜桶若クハ箱等其用ニ供スル器具ヲ裝置スヘシ
  - 醫師事務掛看護人小使等詰所 一棟 大約八坪以内
  - 風呂場 二ヶ所
  - 但一ヶ所ハ醫師事務吏員看護人等用ニシテ一ヶ所ハ恢復患者用トス

但同上

二ヶ所

第四條

避病院ニハ醫師及事務係各一名以上ヲ置キ檢疫委員ヲ以テ之ニ充ツ

第五條

臨時雇員ヲ要スルトキハ經伺ノ上檢疫支部長之ヲ命スルコトヲ得

第六條

看護人ハ重症患者二名ニ付一名輕症患者三名若クハ四名ニ付一名其恢復ニ趣ク者ニハ六名ニ付一名ノ割合チ以テ晝夜交代セシメ又小使排泄物取扱人ノ數ハ便宜之ヲ定メ置クヘシ

但看護人小使排泄物取扱人ノ衣服ニハ其標記ヲ要ス又痘瘡患者ノ看護人ハ既痘者ニ限ル

第七條

避病院ニアル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アルモノ看護ヲ爲サンコトヲ望ムトキハ其心得方ヲ訓示シ之ヲ許スヘシ

但看護人ハ多數ナラサルヲ要シ且ツ屢々交替スルヲ許サス

第八條 避病院ニアル患者ノ親族又ハ別段ノ交誼アル者患者ニ訪問ヲ請フトキハ之ヲ許スヘシト雖トモ室内ニ於テ長談若クハ飲食スルヲ禁シ且吐瀉物ニ接觸セサル様切ニ注意スヘシ

但痘瘡患者ヘノ來訪者ハ既痘者ニ限ル

第九條

避病院ニ在ル患者ノ病况危篤ニ至ルトキハ速ニ其家ニ通知シ若シ死亡スルトキハ入棺セサル前ニ其死體ヲ家族ニ示スヘシ

第十條

避病院ニ關スル一切ノ經費ハ地方稅衛生費ヨリ支辨ス但一部落ヲ區畫シテ設置セント欲シ特ニ請願スルモノアル場合ハ關係市町村ニ於テ其經費ヲ負擔セシメ地方費ヨリ幾分ノ補助ヲ爲スコトアルヘシ

○訓令第三十三號

明治二十四年三月十二日



明治二十三年(十一月)訓令第七十八號ヲ以テ傳染病豫防心得書改正候ニ付テハ格魯布病之儀モ實布の里亞同様ノ取扱ヲ要スヘキノ處其病名ノ異ナルヨリ或ハ届出ヲ爲サ、ル向キ有之趣爲メニ豫防消毒法等實施上時機ヲ失シ病毒ヲシテ散蔓セシメ流行ノ兆ヲ呈スルノ場合ニ立至リ候テハ容易ナラサルニ付自今該病者ヲ診斷候節ハ必ス成規ニ依リ届出シムヘシ

○訓令第四十四號 明治二十四年三月二十三日

郡市役所

種痘ニ應用スヘキ痘漿ノ儀ハ極メテ純良ナルモノニ非レハ暗ニ其病毒ヲ傳ヘ終身羸弱多病ノ原因ト可相成ニ付採漿ノ最際モ健全ナル種痘兒ヲ選ミ十八年四月本縣丙第九十九號痘種施術心得書ニ依リ腺病性及梅毒皮膚病其他帶患ノ小兒ヨリ採漿致サ、ル様深ク注意スヘキ旨種痘醫並一般開業醫ニ達シ方取計フヘシ

○訓令第五十號 明治二十四年三月二十五日

郡市役所

警察署

警察分署

町村役場

客年發生ノ虎列刺病ハ概テ散發性ニシテ敢テ流行ノ兆ヲ呈セス年末ニ至リテ其痕ヲ絶テ

タリト雖モ之ヲ從來ノ實歴ニ徴スルニ春陽ト共ニ再ヒ萌發スルノ虞アルヲ以テ客年發生セシ土地ハ勿論荷モ再發若クハ流行スヘキ恐アル土地ニ於テハ豫防上ノ策ヲ力ムルハ目下ノ急事ナリトス就テハ明治二十年(四月)訓令甲第二十一號清潔法施行準則及同二十三年(十一月)訓令第七十八號傳染病豫防心得書ニ依リ病毒萌動ニ先テ流行ノ不慮ニ備フル様豫テ注意スヘシ

種痘

○丙第九十九號 明治十八年四月二十日

郡役所

戶長役場

明治十三年内務省乙第三十六號遠傳染病豫防心得附録トシテ種痘施術心得書別紙ノ通追加相成候條爲心得此旨相達候事

但衛生委員及開業醫ヘモ無洩差示シ置クヘシ

○内務省甲第九號 明治十八年三月二十四日

警視廳 府縣

明治十三年(九月)當省乙第三十六號遠傳染病豫防心得書附録トシテ種痘施術心得書左ノ通追加候條此旨相達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法痘苗採收及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注



意等ヲ詳知セサルヘカラス其要左ノ如シ

第一 種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
  - 一 生後七十日ヲ經サル者
  - 二 種痘ノ爲メニ一時増進スヘキ病患アル者
  - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
  - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
  - 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レトモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二 接種ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊<sup>三稜筋抵ニ於テ各三針乃至五針</sup>止<sup>部位</sup>ノ<sup>受痘者ノ年齢トシ各針ノ距離</sup>曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ  
第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレトモ此法ヲ行フコト能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ選ヒ用フヘシ但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三 痘苗採收及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採收スヘカラス

- 一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發暈非常ニ大ナル者 疱縁又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者
    - 但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ
  - 二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ハントスル者 痘疱ノ己ニ化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者
  - 三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者
  - 四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者 <sup>第十四條ヲ參觀スヘシ</sup>
  - 五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者
- 第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日<sup>二十四時間ヲ以テ一日ト算ス以下皆同シ</sup>日ト算ス以下皆同シ 寒暖及各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルコトアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシテ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ
- 第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ疱面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘカラス
- 第九條 發痘一顆ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顆アルモ其一顆ハ傷クヘカラス
- 第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子



製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ヲ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯蓄法甚宜シキヲ得ルトキハ五箇月間充分ノ効力アリ)

第四 善感不善感ノ鑑別

第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
- 二 痘泡常形ニシテ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
- 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
- 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
- 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徵候ヲ呈スルヤ否
- 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黑色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルコトナシ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小量ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此暈ヲ見サルコトアリ)

第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナルモノハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコトアリ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡トナリ其周圍ニ狭キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明

ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス

第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘泡全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルコトアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺ユ水脈脈腫起スルコトアリ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ泡液化膿シテ白濁或ハ黃色ノ濃稠液トナリ泡ノ中央稍々凸隆ス然レトモ其形必ラス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘泡其形狀ヲ變スルコトナク此日ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ返縁ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス爾後黯褐色又ハ黑色ニシテ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癍痕ハ圓形又ハ橢圓形ニシテ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス

但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコトアルモ其泡顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徵ハ左ノ如シ

一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ違セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘズシテ紅暈ハ不整形ナリ痘泡ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形



或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレトモ其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善感ノ者ト雖トモ腋下ニ疼痛ヲ覺ユ微熱ヲ發スルコトナキニアラス)

二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ泡ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル

三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル

四 第八日ニ至リ數泡相合シテ一大潰瘍トナリ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル癬痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ルモノナルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ選ヒテ再ヒ接種スヘシ

第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然ルトモ受痘者己ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ於テ接種スルコト問々之アリ

第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖モ熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ

第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル

食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○乙 第三百三十六號 明治十八年 十二月二十六日

種痘取締細則左ノ通相定メ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治十七年(七月)乙第六十八號布達ハ施行當日ヨリ廢止ス

右布達候事

種痘取締細則

- 第一條 種痘ノ季節ハ毎年兩期 四月ヨリ六月マテ 定ム其場所及期日ハ戶長役場ヨリ告知スヘシ 九月ヨリ十一月マテ 定ム其場所及期日ハ戶長役場ヨリ告知スヘシ
- 第二條 小兒出生後七十日ヲ經過シ滿一年以内ノモノ及再三種ヲ要スルモノハ戶長役場ヨリ告知スル期日ニ必ス種痘ヲナスヘシ
- 第三條 種痘濟ノ者又ハ天然痘ニ罹リタル者醫師ヨリ其證書ヲ受領シタルトキハ第一號書式ニ據リ戶長役場ヘ届出ツヘシ
- 第四條 種痘ヲ受クヘキ者第一條ノ期日ニ於テ種痘スル能ハサルトキ病氣ハ第二號書式事故ハ第三號書式ニ據リ戶長役場ヘ届出ツヘシ
- 第一號書式 種痘(天然痘)濟御届

何町番地(又ハ)族籍  
或ハ何誰子弟雇人



右今般種痘(天然痘)濟ニ付別紙醫證寫相添此段御届申上候也

年月日

戸長役場宛

右戸主又ハ後見人雇主

氏名印

第二號書式

病氣御届

同上

同上

右何病ニ罹リ當日種痘難致候條別紙施治醫診斷書相添此段御届申上候也

年月日

同上

同上

同上

第三號書式

事故御届

同上

子弟雇人數名アル  
トキハ連書スヘシ

右何々事故ノ要領ニ付當日種痘難致候條親戚(隣保)連署此段御届申上候也

年月日

同上

同上

何町番地族籍  
親戚(隣保)氏名印

○丙第十八號 明治十九年  
六月二十三日

郡役所  
戸長役場

醫師ノ虎列刺病患者ヲ診断スルトキハ明治十六年(一月)本縣乙第六號布達傳染病患者届規則ニ照準診断書ヲ製シ成規ニ據リ遅クモ二十四時間内ニ患者所在ノ戸長役場へ通報スヘキ筈ノ處若シ届時間遷延スルトキハ其向ニ於テ豫防消毒等ノ手配モ其時期ヲ失ヒ爲メニ蔓延ノ憂モ有之ニ付自今虎列刺病届ハ急速ヲ旨トシ先以テ患者ノ住所氏名ト病名トヲ記載シ戸長役場若シハ所轄警察署分署又ハ郡役所ノ内便宜ノ所へ急報シ爾後三日以内ニ如式診断書ヲ製シ届出不苦候條此旨相心得醫業組合幹事へ相達シ開業醫へ無洩通達セシムヘシ



右相違ス

○縣令第七十三號 明治二十二年九月十四日

種痘施行細則左ノ通相定メ本月二十日ヨリ施行ス

但明治十八年(十二月)乙第百三十六號布達及同十九年(一月)丙第八號達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘施行細則

第一條 種痘ノ季節ハ毎年四月ヨリ六月迄九月ヨリ十一月迄ノ兩期トス

第二條 天然痘流行ノ兆アルトキハ前條ノ期限ニ拘ハラズ市町村長ニ於テ種痘期日ヲ定メ其市町村内ニ告示スヘシ

第三條 種痘濟ノ者又ハ天然痘ニ罹リタルモノ醫師ヨリ其證書ヲ受領シタルトキハ第一號書式ニ據リ市役所又ハ町村役場へ届出ツヘシ

第四條 種痘ヲ受クヘキ者第一條第二條ノ時期ニ於テ種痘シ能ハサルトキハ病氣ハ第二號事故ハ第三號書式ニ據リ市役所又ハ町村役場へ届出ツヘシ

第五條 市町村長ハ豫メ人名簿ヲ製シ第三條第四條ニ依リ届出ノ種類ヲ分チ其成績及事故等ヲ記載捺印スヘシ

第六條 市町村長ニ於テ第八條但書ニ依リ通牒ヲ受ケタルトキハ其實際ヲ取調ヘ尙種痘ノ必要ヲ認メサルトキハ接種セシムヘシ

病氣又ハ事故ニ依リ當期ニ於テ接種スル能ハナルトキハ次期ニ於テ必ず接種セシムヘシ

- 第七條 市町村長ハ第四號書式ニヨリ種痘明細表ヲ製シ毎年春期分ハ七月七日限り秋期分ハ翌年一月七日限り市長ハ縣廳へ町村長ハ郡役所へ差出スヘシ
- 第八條 種痘施術醫ハ接種濟ノ後必ず檢診シ種痘證ヲ與フヘシ  
但檢診ノ上不善感ノ者ハ三日以内ニ市役所又ハ町村役場へ通牒スヘシ
- 第九條 種痘施術醫ハ種痘人名簿ヲ製シ種痘證ニ割印スヘシ
- 第十條 種痘施術ノ方法ハ明治十八年(三月)内務省甲第九號達種痘施術心得書ニヨル第一號書式

種痘(天然痘)濟御届

何市町村番地(又ハ)族籍

何誰子弟雇人

氏

子弟雇人數名アルトキハ連署スヘシ

右今般種痘(天然痘)濟ニ付別紙醫證寫相添へ此段及御届候也

右戸主又ハ後見人雇主

年月日

氏名印

市町村長宛

第二號書式

傳染病豫防



病氣御届

右何病ニ罹リ當期ニ於テ種痘難致候條別紙施治醫診斷書相添此段及御届候也

年月日

同上

第三號書式

事故御届

右何々事故ノ要領ニ付當期ニ於テ種痘難致候條親戚(隣保)連署此段及御届候也

年月日

親戚(隣保)氏名印  
何市町村番地族籍

同上

第四號書式

何市町村種痘明細表

明治何年上下半年期

| 區別       | 初種 |     |              | 再種 |     |              | 三種 |     |              |
|----------|----|-----|--------------|----|-----|--------------|----|-----|--------------|
|          | 善感 | 不善感 | 疾病事故ニテ種痘セサル者 | 善感 | 不善感 | 疾病事故ニテ種痘セサル者 | 善感 | 不善感 | 疾病事故ニテ種痘セサル者 |
| 以滿一年     |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 內一年以上二年  |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 以二年以上五年  |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 滿五年以上十年  |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 滿十年以上十五年 |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 滿十五年以上   |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 十五年以上    |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 合        |    |     |              |    |     |              |    |     |              |
| 計        |    |     |              |    |     |              |    |     |              |



合計

種痘規則第三條ニ據リ接種セシモノハ表中ニ算入セズ表末ニ於テ其人員及感否ノ別ヲ附記スヘシ

○訓令第二號 明治二十三年一月十一日

市役所 町村役場

種痘人員ノ調査ヲ精覈ナラシメンカ爲メ二十二年九月縣令第七十三號種痘施行細則第五條ニ當ル種痘人名簿ハ別紙様式ニ據リ詳細調製スヘシ

(表紙)

種痘人名簿

何市郡何村町

明治二十四年三月十四號

明治何年春(秋)期分

初種ノ部

何市郡何村町

當期接種セサル 成績 住所及父兄名 氏名 生年月日

明治何年春(秋)期分

再種ノ分

何市郡何村町

當期接種セサル 成績 住所及父兄名 氏名 生年月日

三種ノ部モ前表式ニ同シ

本表ハ種痘期日ノ初メニ於テ當期種痘スヘキ種別住所父兄名本人氏名年齢ヲ記載シ置キ種痘施術細則第三條第四條ノ届出ヲ待テ成績(善感)不(善感)當期接種セサル事由(天然痘疾)疾病事故ヲ記入捺印スルモノトス



第四章

衛生協議會

衛生報告

○號外 明治十六年七月五日

衛生課  
警察本署  
郡役所

本年四月二十七日號外ヲ以テ相違候衛生諮問會ヲ衛生協議會ト改稱規則左之通改定候條此旨相違候事

衛生協議會規則

- 第一條 本會ハ各郡衛生上ノ氣脈ヲ通シ該事務實施ノ順序等ヲ協議スルモノトス
- 第二條 本會ハ毎年二回三月十月之ヲ開ク其中一回ハ本廳ニ於テシ一回ハ各郡ニ於テ輪番ヲ以テ之ヲ開クモノトス
- 但臨時至急ヲ要スル事件アルトキハ特ニ開設スルコトアルヘシ
- 第三條 開會ノ期日ハ其都度縣廳ヨリ之ヲ達スヘシ
- 第四條 本會ノ議題ハ縣廳ヨリ之ヲ發ス
- 但シ時宜ニ依リ會員中ヨリ提出スルコトヲ得
- 第五條 本會ハ會員半數以上出席セサレハ當日ノ會ヲ開カス
- 第六條 會員ハ各郡市衛生主務ノ郡吏一名警察官吏一名及開會地衛生主務ノ警部一名ヲ以テノ警部一名ヲ召集シ之ニ充ツ

十六年十一月九日  
號外更正  
明治廿二年九月廿四號  
訓令第四十號  
參看

但時宜ニ依リ警察本部各警察署衛生主務ノ警部又ハ警部補ヲ召集スルコトアルヘシ  
第七條 會長ハ衛生課長ヲ以テ之ニ充テ副會長ハ會員中互選投票シテ之ニ充ツ

第八條 書記ハ衛生課員ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 本會ハ衛生課員衛生警察官衛生主務郡吏濟生館醫戶長衛生委員開業醫ノ傍聽ヲ許ス

但時宜ニヨリ傍聽ヲ禁スルコトアルヘシ

第十條 本會ニ於テ建議セントスルモノハ會長ノ名ヲ以テ縣令ニ開申スヘシ

第十一條 議事細則ハ會員ニ於テ編製シ縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス

○訓令甲第五十三號 明治二十一年十二月十九日

郡役所

今般內務省報告例改定相成候ニ付明治十九年(十二月)縣令乙第十五號衛生諸表式別紙之通更正候條自今該表式ニ照準調製シ前年分ハ翌年二月限り差出スヘシ  
(表式ハ明治二十四年訓令第九十號報告例ニ讓ル)



明治二十五年八月一日印刷  
明治二十五年八月<sup>六</sup>七<sub>六</sub>日出版

(非賣品)

# 山形縣

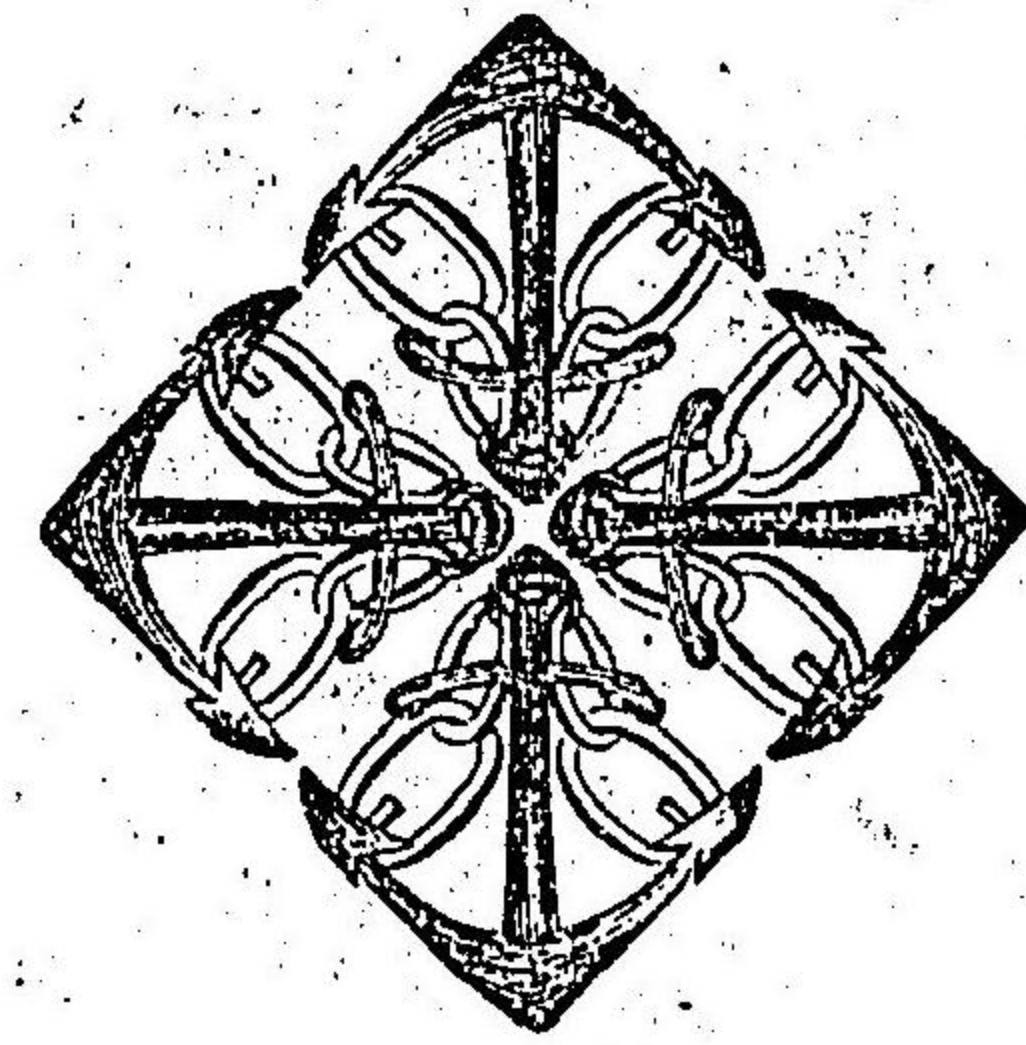
山形縣山形市大字七日町五百六番地

印刷所 鳴時社

山形縣山形市大字六日町三百十番地

印刷者 片山庸作







禁電子式複写

031293-001-9

CZ-1113-22-02

現行山形県県令類編

山形県

M25

BBD-0444





